

第111回一般質問一覧表

7.12.19

順位	氏 名	大 項 目	小 項 目 (要 旨)	答 弁
1	藤原哲也	SDGsゴール11（安全な都市）推進による住民参加を拡充し、地域経済の活性化と再資源化・省エネの施策拡充について	<p>(1)SDGsへの市民参加を拡充するための施策はどのように考えているのか。</p> <p>○SDGsゴールに対する持読可能なエネルギー確保に向けた市の現行の省エネ補助金（太陽光・蓄電器）に対する参加層が一部に留まっている課題認識について問う。</p>	部 長
			<p>(2)住宅リフォーム補助事業の新規導入と地域経済・住宅の質の向上（省エネ、バリアフリー、耐震化等）に果たす役割の向上について、またこのような事業の導入について</p> <p>○本市においても、市民生活向上、定住促進、地域経済活性化のため、明石市などの先進事例を参考に「一回当たり最大10万円」といった補助事業を導入すべきと考える。このような補助事業が、市内建設産業への経済効果を確実に波及させつつ、住宅の質の向上（省エネ、バリアフリー、耐震化等）に果たす役割について、市はどのように認識しているか。また、新規導入の可能性について市の見解を問う。</p>	市 長
			<p>(3)市民の多様なニーズに応え、多岐にわたる住宅改修補助において、地域経済振興のため、市内業者に限定している他市の良い事例を参考に導入すべき。</p> <p>○住宅改修補助は多岐にわたる工事を対象とするため、「市内業者限定」にすることで、地域経済の活性化につながる。よって、他市で実施している良い事業例を検証し、公平性・競争との両立を図りつつ、法的根拠を基に導入すべきと考えるが、市の考えを問う。</p>	

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
		インフルエンザ感染リスク予防のための助成拡充について	<p>(1)「新型インフルエンザ等対策行動計画」（案）において「水際対策・まん延防止」の実効性は。</p> <p>○西脇市の「新型インフルエンザ等対策行動計画」（案）において、「感染拡大の抑制」と「市民の生命の保護」が基本方針として掲げられているが、「水際対策・まん延防止」に対して、新型インフルエンザ等感染症予防の実効性を市としてどのように考えているのか問う。</p>	部長
			<p>(2)希望する児童・生徒への季節性インフルエンザワクチンの助成を。</p> <p>○季節性インフルエンザは、学級閉鎖や学校閉鎖に直結する集団感染のリスクが高い。特に小学生、中学生の予防対策をどのように対策しているのか。また、ワクチンは個人の重症化を防ぐだけでなく、学校全体、ひいては家庭や地域への感染拡大を防ぐ上で、極めて重要な公衆衛生上の対策である。ワクチンは任意であるが、接種を希望する方への助成の考えはないのか。子育て世代の経済負担の軽減、感染予防対策の向上になり、現行の助成制度の抜本的な見直しをするべきと考えるが市の考えを問う。</p>	市長
			<p>(3)経鼻インフルエンザワクチン「フルミスト」の活用に向けた市の取組について</p> <p>○インフルエンザワクチンには注射ではなく、鼻腔内にスプレーで接種する経鼻生ワクチン「フルミスト」があるが、特に注射が苦手な子どもの保護者からその利便性が注目されている。日本でも使用され、6歳までの子どもに高い有効性が示されている。本市においても将来的な選択肢を増やすため、この新たなワクチンに対する情報収集と有効性の検証を始め、「フルミスト」への助成をすべきと考えるが市の見解を問う。</p>	

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
		夏場の小学生下校時のスクールバス導入について	(1)今年の議会と語ろう会で、市民から夏場の小学生の下校時での熱中症対策における安全確保の要望を受けた。9月定例会中の文教民生常任委員会（その他質疑）で、猛暑期間の下校時のスクールバス導入の議論をした結果を踏まえて、令和8年度の対応に係る検討状況について、市民から直接要望を伺った当事者として進捗を問う。	市長
2	高瀬 洋	童子山公園の野鳥ケージについて	(1)野鳥ケージで飼育されている動物への対応について ○動物福祉の向上に取り組まれている市民団体から、ハトの健康状態について意見をいただいた。現状や対応を問う。	部長
			(2)野鳥ケージで動物を飼育することは終息すべき。 ○飼育環境は良くない。動物福祉の観点から終息を求める。	
			(3)市内の小中学校での動物の飼育状況について ○昔は飼育していたが、現在はどうか確認する。	
		童子山公園の配水池跡地のリニューアルについて	(1)現在どのような計画になっているのか。 ○令和5年9月の一般質問の答弁では2年以内に方向性を示したいとの答弁であった。	部長
(2)高校生からの提案も検討の材料にしてもらいたい。 ○若い人たちの意見として、実現性の検討をしてもらいたい。				
(3)立ち入り禁止の標札について ○配水池跡地は荒れており、公園全体の印象を下げている。立ち入り禁止の標札は施設が稼働していた時代のもの。この施設の説明板に交換できないか。				
		(4)高校生議会（高校生の提案）を政策に結び付けるには。 ○市長に直接提案できる機会も必要と考えるが。	市長	

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
3	吉井敏恭	健幸都市・にしわきを目指す取組について	(1)本年度で国の補助金が終了する健幸ポイント事業について ○運動の習慣化や健康への関心喚起の取組は非常に重要である。健幸ポイント事業の内容の見直しをどのように図ろうとしているのか。	市長
		無理なく自然に健康につながる行動をとれるような環境づくりについて	(1)街路樹を伐採した後について ○街路樹の伐採後、切り株や植栽柵はそのまま、根上がりも確認できる状況にあるが、今後の対応は。	部長
			(2)街路樹維持管理計画において、優先して撤去すべき街路樹を位置付けているのか。 ○万が一を考えると、車道に傾いた街路樹は優先して撤去すべきと考えるが、街路樹維持管理計画において、どのような位置付けにあるのか。	
			(3)街路樹の落ち葉について ○落ち葉の掃除について、住宅に隣接していても年を重ねるごとに手に負えなくなっている。濡れ落ち葉は極めて滑りやすく危険である。何らかの対応を考えているのか。	
	(4)街路樹や植栽帯の適正管理について ○街路樹や植栽帯は成長しており、剪定にかかるコストも年々増大している。限られた予算の中で、良好な維持管理は困難である。街路樹の思い切った削減が必要ではないか。	市長		
4	岸本年裕	消滅可能性自治体からの脱却に向けて	(1)出生数の推移及び今年度の見通しについて ○本市では過去10年ほど、どのように推移しているのか。 ○今年度の出生数はどの程度になる見通しなのか。	部長
			(2)出生数減少の要因について ○本市にとって、どの要因が特に大きな影響を与えていると捉えているか。 ○国全体の傾向を追うだけでなく、本市独自の状況分析が必要であると考えますが、市の見解を問う。	

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁 部長
			(3)先進不妊治療支援事業の実績について ○先進不妊治療支援事業を導入後の実態について問う。	
			(4)不妊治療支援の拡充について ○一般不妊治療への助成対象拡大、交通費補助、そして事業所への働きかけによる理解促進など、包括的な支援策について、本市の考えを問う。	
			(5)妊婦健康診査に対する支援について ○妊婦健康診査が極めて重要である。経済的負担が理由で健診を控えることがあってはならない。妊婦健診費用に対してどのような支援を行っているのか。また課題は。	
			(6)「切れ目ない支援」の現状と課題について ○市民からは1～2歳児の育児期間において、支援が途切れているという声を多く聞く。この支援の空白について、本市としてどのように把握し、課題を認識しているのか。	
			(7)1～2歳児への給付制度導入の可能性について ○「選ばれるまち」となるためにも、1～2歳児への給付制度の導入を検討すべきと考えるが。	
			(8)就学期の負担軽減と給食費無償化について ○教育費、習い事、そして給食費が家計を圧迫している。国でも給食費無償化が議論されているが、本市として制度設計をどのように見通しているのか。 ○小学校給食費無償化について問う。	
			(9)子育て支援制度の周知と利用促進について ○困っている方に確実に支援が届くような情報発信、相談体制や伴走支援についての取組を問う。	

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(10)消滅可能性自治体から脱却するための決意について</p> <p>○今必要なのは、子育て世代が「このまちで生きていこう」と思える確かな希望である。人口減少を前提とした縮小均衡ではなく、未来への投資としての子育て支援施策をどのような決意と方向性をもって推進していくのか。市長の考えを問う。</p>	市長
			<p>(11)「ひよこ保育園」の人件費上昇及び物価高騰を踏まえた補助金額の見直しについて</p> <p>○認可外保育施設としての運営は依然として厳しい状況が続いている。また、園舎は築15年が経過し、屋根・床の修繕に続き、外壁、厨房機器、空調設備などの更新時期を迎えているほか、近年の最低賃金の上昇や光熱費・物価高騰の影響により、運営に必要な経費が大きく増加している。人件費上昇や物価高騰などの実態を踏まえ、補助金の増額を検討すべきと考えるが、市長の考えを問う。</p>	
5	杉本佳隆	デジタルノマド受入れによる人口減少対策と地域の活性化の推進について	<p>○デジタルノマドとは、インターネットを利用してリモートで働きながら「遊牧民（ノマド）」のように、特定の住居を持たず自由に移動するライフスタイルを指す。デジタルノマドを誘致することで、宿泊、飲食、観光消費の増加や関係人口の創出、地域企業との協働、将来的な移住・創業の効果まで期待できる。</p> <p>(1)本市におけるデジタルノマドの受入れに対する現状の認識と、デジタルノマド層をどのように位置づけているのか。</p> <p>(2)公共施設や宿泊施設等における、ワークスペースとしての環境整備について、今後の整備や情報発信の方向性は。</p>	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			(3)デジタルノマド向けの滞在について、短期滞在でなく、「働く滞在」を促すことができる。本市において、宿泊施設が少ない中、長期滞在に対応できる取組は考えられるのか。	部長
			(4)デジタルノマド誘致は、中長期滞在型の支援策として、空き家の活用ができれば、地域の活性化につながると考えるが。	
			(5)デジタルノマド人材と地域産業の接点づくりの必要性、交流イベントやワークショップ等の実施について検討しているのか。	
			(6)本市が観光政策、商工政策、定住政策を横断して、働く滞在地を築き、都市部から新たな人材の流れをつくることに期待する。	市長
6	藤本留実	学校給食費の現状	<p>(1)給食費予算の全体像と材料費・食材費の現状について</p> <p>○これまでも先輩議員が繰り返し取り上げてこられたテーマであるが、物価高騰が続く中で、子育て世帯の負担が一層重くなっている現状を踏まえ再度質問する。本市では令和4年度以降、物価高騰対策として国の臨時交付金等を活用し、学校給食に必要な食材費の増加分を公費で負担していると聞いている。現在の給食費は、小学校低学年 230円（3,900円/月）、高学年 243円（4,100円/月）、中学校 275円（4,400円/月）だが、令和7年9月定例会では、1食当たり60円から73円程度の値上げが必要との試算が示された。臨時交付金を活用しても十数円の値上げが避けられない可能性があるとの答弁だったが、12月補正予算において追加の物価高騰分も公費で負担し、値上げが見送られたことには感謝を申し上げる。そこでまず、令和7年度の学校給食費予算の全体像、特に材料費・食材費の現状について説明を求める。</p>	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(2)公費負担分の一人当たりの金額公表について</p> <p>○市が現在負担している物価高騰分について、児童・生徒1人当たり月額でどれほどになるのか、具体的な金額は。</p>	部長
			<p>(3)給食費無償化を実施していない理由について</p> <p>○本市の財政状況から給食費無償化が容易でないことも認識している。一方で近隣の市では、加東市や加西市が無償化を実現している。本市がまだ給食費無償化を実施していない理由を、市民の方が納得するような説明を求める。</p>	
			<p>(4)本市の未来を見据え、教育長としての考えは。</p> <p>○給食費の無償化は、もはや単なる負担軽減ではない。人口減少が加速する今こそ、子育て世帯を本気で支えるための、将来への決定的な投資である。令和6年3月議会での申入れから1年が経過し、小学校については無償化が実現しつつある。であれば、中学校の無償化についても、次に踏み出すべき段階に来ていると考える。本市の未来を見据え、教育長としてどのような判断をするのか、明確な考えを示してほしい。</p>	教育長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
7	巽 泰	西脇市のコミュニティ交通（むすブン）の利用実態と今後について	<p>(1)現在、西脇市ではコミュニティバスとして、ループバス「めぐリン」や「おりひめバス」を運行し、市街地の移動を中心に一定の役割を果たしている。一方で、黒田庄地域では西脇市乗合タクシー「むすブン」が利用されており、特に高齢者の方々にとって大切な移動手段となっている。しかし、市民の方からは「希望する時間帯に予約が取りにくいことがある」「午前中は特に混みやすい」といった声もある。利用者が増えていることは良いことであるが、同時に、移動手段としての利便性をどのように維持していくかは、今後の大切な課題であると考えている。</p> <p>○予約が取りにくいという市民の声は把握しているか。</p> <p>○予約が集中しやすい時間帯や曜日について分析しているか。</p> <p>○今後のさらなる利便性向上策はあるか。</p>	市長 部長
		1人1台端末（GIGAスクール）とフィルタリング・ログ活用について	<p>(1)現在、西脇市ではGIGAスクール構想に基づき、すべての児童・生徒に1人1台のPC／タブレット端末を配布し、学校内外で活用できる学習環境が整えられている。一方で、端末を家庭で使用する際に、学習と直接関係のない動画視聴（Y o u t u b e）や、インターネット上のブラウザゲームで遊んでいるといった声も耳にするようになった。ICTが日常的に使えることは大きなメリットである一方で、安全な利用や適切な管理が必要であることは言うまでもない。</p> <p>○フィルタリングやセキュリティ対策はできているか。</p> <p>○アクセスログや学習時間などのデータ分析はできているか。</p> <p>○ガイドラインは整備できているか。</p>	教育長 部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
8	高瀬弘行	4期目における市長の政治姿勢等について	○所信表明関連 (1)基本的な政治姿勢について、所信表明では「はじめに」の項において「幅広い市民の皆様との対話を大切にするとともに、その中でいただく御批判や御指摘、御提案を一層謙虚に受け止め、より良い未来に向けた改善の糧としてまいります。そして、積極的な情報発信を心掛け、市民に寄り添った施策を展開してまいりたいと考えています。」とあり、「おわりに」の項においても「市政に対する様々な声、市議会からの御意見に耳を傾けながら、市政運営に邁進してまいります」とあるが、今回の選挙戦を通じて、市長の政治姿勢のどのような点が課題と受け止め、どのように改善しようとしているのか。 (2)子どもの誕生前から幼児期までの、切れ目ない経済的支援とは。（所信表明P6の10行目に記載）	市長
			○地域の課題解決に向けた現状認識と課題解決に向けた「財政調整基金」等の基金の活用について (1)「周辺地域」における公共交通の確保（病院などへのサービスを含む）について (2)農業従事者の高齢化問題（草刈りなどを含む）について	
			○重点支援地方交付金について (1)予算規模と交付時期等について (2)「おこめ券」の取扱いについて	
9	藤原秀樹	JR加古川線西脇市駅谷川駅区間維持存続について	(1)新たな観点からの維持存続活動について ○国防の観点から維持存続の活動をしたことはあるか。 (2)陸上自衛隊の車両移動について ○国道175号でよく見かける自衛隊車両はどこの駐屯地の車両と思われるか。	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			(3)新たな陳情活動などについて ○防衛省や陸上自衛隊青野原、福知山両駐屯地司令と海上自衛隊舞鶴地方総監などに面会し、鉄道国防や災害時の役割に関する重要性を訴えてはどうか。	市長
		物価高騰対策について	(1)国民健康保険の標準税率について ○来年度の見通しはどうか。	部長
			(2)来年度の国民健康保険について ○緩やかに合わせていくのは良いが、物価高騰対策として基金を活用し、その値上げ分全額を給付してはどうか。	市長
			(3)重点支援地方交付金について ○おこめ券はないと思うが、プレミアム商品券購入は原資がいるため、困っている家庭には届かない。市はどう考えているのか。	
10	浅田康子	医療費の償還申請の簡素化を考える	(1)医療機関の違いで肢体不自由児通所医療（公費）の還付と医療費無料の違いは。	部長
			(2)「他公費医療自己負担額助成事業」の対象人数と実績を問う。	
			(3)償還申請の手続きの負担を軽くするための施策は。	市長
		市が売却を予定している市有地と3地区の産業街区について、今後どのように利活用を進めてくのか	(1)市が所有する土地の「売却予定」について ○売却予定地を11か所とした理由は。 ○令和7年11月に変更された表示の変更理由は。 ○令和2年の委員会から申入れをしているが、その後の対応は。 ○売却の他、賃貸の考えは。	部長
(2)「売却予定地」11か所のうち、3か所の状況（営業活動）について ○小坂町、公共用地 8,381㎡（成田山北） ○郷瀬町、宅地27,500㎡（旧庁舎等跡地） ○上比延町、宅地 5,309㎡（友遊農村公園南）				
(3)高松地区産業街区整備事業の進捗状況を問う。				
(4)寺内ランプ周辺地区産業街区整備事業の進捗状況を問う。				

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			(5)平野西地区産業街区整備事業の進捗を問う。 ○令和7年度事業計画の進捗状況は。 ○令和9年度払下げ予定に向けた計画は。 ○企業誘致の方向性は。	部長
			(6)旧庁舎等跡地の売却を含む利活用の方法とロードマップを示し、市民と共有することが必要と考えるが、市長の見解を問う。	市長
11	林 晴信	西脇市版ローカルビジネス創生モデルをつくらう 移住対策×空き家対策×就労支援・起業支援	(1)移住希望者の受け皿づくりとしての空き家バンクの機能強化について ○①物件登録数の増加②マッチング率の向上③改修補助や家主支援の拡充などに向けた新たな取組をどのように検討しているか。 (2)空き家活用（移住支援）コーディネーターについて ○空き家の発掘・家主との交渉・利用者のフォローを専門に行う「空き家活用（移住支援）コーディネーター」の配置について、見解を問う。 (3)移住・定住希望者が望むもの ○「西脇市移住定住相談」オンライン窓口での年間の相談数はどのくらいあるのか。 ○アンケートの6番及び7番で多いものは何か。 (4)移住・定住希望者への就労支援強化について ○移住者向けに仕事情報が整理されているようなキャリア相談窓口があるか。 ○移住者向けに、地元企業情報の一元化や職業相談・キャリア面談、企業側とのマッチング支援などを行う仕組みを整えるべきと考えるが。	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(5)移住者と若手の「起業支援」の強化について</p> <p>○さらに一歩進めて、空き家を活用した小商い（小さな起業）支援、創業補助金、店舗改修補助などの仕組みを整備充実し、移住者・若者の起業を後押しすべきと考えるが、来年度に向けた検討状況を問う。</p> <p>○「チャレンジショップ」「創業支援拠点」さらなる（播州織だけじゃない）「コワーキングスペース」といった起業の入口となる拠点整備の今後についても、市の考えを問う。</p>	部長
			<p>(6)3施策を統合した西脇市版ローカルビジネス創生モデルについて</p> <p>○①空き家活用②移住支援③就労・起業支援の3つを統合した、包括的な人口減少対策（ローカルビジネス創生モデル）の策定について、市長の所見を問う。</p>	市長
12	長谷川智春	西脇市における中学校部活動の地域展開と子どもたちの夢の実現について	<p>(1)地域クラブ「西脇へそっ子くらぶ」の運営団体について</p> <p>○県内の地域クラブはNPO法人が運営している所もあり、例えば播磨町では「NPO法人スポーツ21はりま」が運営団体となっている。西脇市の運営団体はどうか。</p> <p>(2)平日の部活動を検討する団体について</p> <p>○令和7年7月の段階で平日の活動を検討する団体の増加を確認したと聞いている。どれぐらいの数の増加か。</p> <p>(3)令和8年度からの実証事業団体について</p> <p>○今、実証事業団体の剣道と陸上は引き続き実証事業団体なのか。</p> <p>○新しい実証事業団体については今募集していると思うが、現在の状況はどうか。</p>	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(4)令和10年度の中学3年生の大会、発表会終了後の完全地域展開について</p> <p>○令和10年度の完全地域移行の際、在校生の2年生、1年生への対応はどのように考えられているのか。</p>	部長
			<p>(5)地域展開による子どもたちの生活の変化について</p> <p>○地域展開に伴い、やりたいことに挑戦できる機会を増やすことが必要と考えているとあったが、放課後自宅に帰って何もしない、また家庭の事情で、したくてもできない子どもの対応はどう考えているか。</p>	教育長
13	馬場智大	国道175号西脇北バイパス開通に伴う寺内ランプ周辺利用に関する機能拡大と環境整備について	<p>(1)現状の道の駅における課題認識と国道175号西脇北バイパス開通後に伴う対応について問う。</p> <p>○現状、北はりま田園空間博物館総合案内所の指定管理者であるNPO法人北はりま田園空間博物館との課題懇談会で、道の駅、またその周辺の環境について、いくつかの課題が提示されているが、その現状の認識について問う。</p> <p>○上記を踏まえ、市としては国道175号西脇北バイパス開通を見据えた当施設の役割認識についてどう考えているか。</p> <p>(2)道の駅の多機能性（移住相談窓口・アウトドア拠点化・ワーケーション施設等）と今後の方針について問う。</p> <p>○近年、道の駅は従来の「運転手の休憩施設」という役割を超えて、地域の観光振興、移住相談、特産品の発信、防災拠点など、多様な機能を持つ複合的な地域拠点へと進化している。本市においても、この国道175号西脇北バイパス開通に伴い、これまで以上の幅広い利用者層の来訪が期待され、道の駅の役割はさらに高まると思われるが、道の駅としての今後の方向性、指定管理者との連携体制について問う。</p>	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(3)国道 175号西脇北バイパス開通とさらなる北進について、またそれを契機とした沿線地域の未来について問う。</p> <p>○国道 175号西脇北バイパスの開通とさらなる北進は、本市にとって交通利便性の向上にとどまらず、人・物・情報の流れを変える大きな転換点であり、道の駅をはじめとする地域拠点の役割を、市内向けから広域へと広げる機会であると考え。一方で、市民からは「通過交通が増え、西脇に立ち寄りなくなるのではないか」といった不安の声も多く聞かれ、バイパス開通の効果を市民が実感できる形で示していくことが重要である。この重要な転換点を、市民の不安を払拭し、「確かに西脇は良くなった」と実感できる成果につなげていくため、開通後の短期的な取組と、企業誘致や広域ネットワーク形成を見据えた中長期的な取組を、どのように組み合わせて進めていくのか。また、国道 175号西脇北バイパスのさらなる北進とその沿線地域の将来像について、市長の所見を問う。</p>	市長